

西濃農林事務所の普及活動状況

平成28年12月28日現在

今月の重点活動

■新規就農者の確保 管内農業の現地巡回学習会

12月8日に、将来の地域農業の担い手確保・育成を目的に、県立大垣養老高等学校の1、2年生の希望者23名を対象とした現地学習会を開催した。

管内の先進的な経営体の(有)ブロメリア・ギフ(花き)、岐阜県就農支援センター(トマト)、(有)福江営農(土地利用型)、(株)安立ファーム(肉用牛)、(有)とり沢(6次産業化)、(有)健康やさい村(葉菜)を視察し、経営主や、農業高校出身の従業員等の説明を、関心を持って聞き入っており、将来の担い手の確保に期待の持てる学習会となった。



【(有)ブロメリア・ギフ】



【岐阜県就農支援センター】



【(有)福江営農】



【(株)安立ファーム】



【(有)とり沢】



【(有)健康やさい村】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー ブロッコリー出荷及び食農体験の実施

今年度は、9月の天候不順により定植時期が例年より遅れ、12月上旬に冷え込みがあったため、12月上旬までの出荷量は6,427ケース(前年比45%)となっており、暖冬傾向にあった昨年のような集中出荷はないと思われる。

12月21日に、JAにしみのブロッコリー生産協議会大垣部会の食農活動として、青墓小学校3年生75人を対象に、ブロッコリー収穫体験が開催された。収穫前に、農業普及課から、ブロッコリー栽培方法、収穫の注意点について説明を行い、子供たちは、大きく育ったブロッコリーを収穫した。収穫後には、JA青墓支店女性部によるブロッコリースープなどの試食があり、ブロッコリーの栄養などの説明を受けた。



【小学生収穫体験の様子】

売れるブランドづくり

■大豆 適期収穫啓発

大豆の収穫については、農業普及課から適期刈取りや汚損粒対策について啓発を行い、11月中旬から収穫が始まり、年内に概ね終了した。

本年は莢つきが良く、作柄は昨年よりは良いものの、子実は小粒傾向であり、収量は平年並みとなる見込みである。

また、成熟期における子実のロスを減らすため、品種試験（フクユタカA1）を実施し、対照圃場と比較しロスが少ないことを確認した。



【大豆収穫の様子】

■トマト 海津トマト部会各支部圃場巡回、現地視察及び研究会の開催

12月12日から19日にかけて、海津トマト部会の5支部で圃場巡回、現地視察及び研究会が開催された。圃場巡回では、今年産では、新たな取り組み（炭酸ガス施用、モニターによる環境データの見える化、全面マルチ、Nターン誘引など）やポット耕栽培者の増加等があり、各支部で、例年以上に活発な情報交換が行われた。

■いちご いちご各生産組織が目揃会を開催 全域

いちごの収穫が11月下旬から始まったことを受け、11月下旬～12月上旬にかけて各生産組織で目揃会が開催された。

今年は定植期以降に天候が不順だったため、生育の遅れが目立ち、12月に入って出荷量がまとまってきた。

農業普及課は、生育に合わせた今後の栽培管理や病害虫防除等について栽培講習を行った。



【出荷基準の確認をする生産者】

■なし 植物成長調整剤（シアナミド剤）の使用法勉強会

昨年からの暖冬の影響や歴年の着果負担等による樹勢低下により、今年の「幸水」で花が咲かなかった樹が発生し、収量が減少したほ場があった。

そのため、農業普及課は12月9日に大垣市内梨生産者を対象に、シアナミド剤の使用による着果安定を目的に、メーカー担当者を招いて効果的な使用法と使用上の注意点について勉強会を開催した。また、勉強会では、今年行ったシアナミド剤の効果確認調査の結果について情報提供を行った。

■白ネギ 白ネギ出荷前目揃会の開催

12月8日にJAにしみの不破南部ライスセンターにおいて白ネギ目揃会が行われ、不破管内の白ネギ生産者6名が出席した。

各生産者が持参したネギを用い、市場（榊岐果）及びJA全農担当者が出荷規格等について説明した。生産者は説明を受け出荷規格等の再確認を行うとともに、質疑応答も活発に行われた。

農業普及課からは今年のネギ栽培における作柄状況、また葉先を中心に発症しているベト病に関する情報提供を行った。

出荷は12月12日から週3日で行われる。



【市場担当者の説明を受けながら出荷の荷姿を整える生産者】